



閣甲第四九號

十三年三月六日

表可
決定
年月日
行

内閣總理大臣

Handwritten signature

内閣書記官

Handwritten signature

外務大臣

Handwritten signature

大藏大臣

Handwritten signature

海軍大臣

Handwritten signature

文部大臣

Handwritten signature

逓信大臣

Handwritten signature

内務大臣

陸軍大臣

司法大臣

農商務大臣

鐵道大臣

別紙内閣總理大臣請議義指金ヨリ諸
費支出ニ関スル件ハ相当ノ儀ト被認

ニ付請議ノ通閣議決定相成然ルヘシ

指令案

義捐金ヨリ諸費支出ニ関スル件請議ノ通

大正十三年三月十日

義捐金ヨリ諸費支出ニ付キ請議ノ件

義捐金ノ處分方法ニ就テハ曩ニ夫々閣議決定相成候處尚今後ノ處分ニ誤ッヘキモ、貳千七拾七圓餘ニ達シ候ニ付九記請費支出相成様致度右閣議ヲ請フ

大正十三年三月五日

内閣総理大臣清浦奎吾
内閣総理大臣清浦奎吾殿



記

一、衛生醫療費

簡易療養所及外來診療所ハ必要ト認ムル程
度ニ於テ尚繼續ノ必要アルヲ以テコレカ經營維持
ノ爲メ相當經費ヲ要シ又バラックノ衛生状態ニ付
テモ尚遺憾トスル点少カラサルヲ以テ消毒排水溝

建造等ノ經費ニ要シ其他醫療救護上、
必要經費ヲ要ス此ノ金額約貳百五拾萬圓

二 蚊帳調達費

バラック居住者中貧困者ニ對シ蚊帳ノ配給ヲ必
要トス此ノ金額約貳拾萬圓

三 社會事業團體補助費

罹災私設社會事業團體ハ其ノ救護シクコレカ
復旧資金ニ付テハ各團體共非常ナル困難ヲ感シ
之ヲ放任セムカ事業閉鎖ノ止ムナキニ到ルヘキモノ亦甚
カラサルノ状勢ナリ又震災救護ニ従事シテ現在ニ及ヒ
タル施設ニシテ遽ニ閉鎖セシムルハ救護ノ目的達成上

不適當トスルモノ甚カラス之等ハ何レモ災後ノ社會施
設トシテ重要ナルモノナルヲ以テ此際相當補助ヲ爲シテ
事業ヲ復旧セシメ又ハ將來相當期間事業ヲ繼續
セシムトス此ノ金額約參百萬圓

四、授産事業及小資融通事業補助費

震災ニ因ル失業者ニ對シテハ既ニ各種施設ヲ講シ

救護ニ努メツツアリト雖モ現下ノ状況ハ益々コノ種施
設ノ必要ヲ加ヘツツアリ此際失業者ニ對シテ簡易
ナル技能ヲ授ケ以テ就職ノ便宜ト收入ノ増加トヲ
計リ自活ノ方策ヲ樹テシムルタメ罹災府縣市ノ
授産事業職業輔導事業ニ對シテ助成ヲナサント
ス又罹災者ニシテ資金ヲ有セサル者ノ自活困難ナルモノ

少カラス之等ニ對スル施設トシテ府縣ニ對シ相當
資金ヲ交附シ小額ノ生業資金貸付ノ方法ヲ講
シ以テ生活ノ安定向上ヲ得シメトス此金額約百
壹萬圓

五、公益質屋經營補助費

一般労働者並ニ小資商業業者等ニ廣ク利用セラ

ル質屋ハ罹災地方ニ於テ災前ニ比シ其ノ數約
半減シタルヲ以テ公益質屋ノ經營ハ此際最モ機
宜ニ適シタルモノト認メラルヲ以テ府市其他ノ公益
團體ニ於ケル本施設ニ對シ補助ヲナサトス此ノ金
額約八拾萬圓

六、老廢收容施設補助費

曩ニ 皇族御下賜金五拾萬圓ヲ拜受シタル

ヲ以テコレカ處分方ニ付キ參與會議ニ諮リタル結果

震災ノ爲ノ不具廢疾トナリ又ハ老廢者ニシテ扶

養者ナキモノ等ノ救護施設ヲ講スルヲ適當トス

ヘク意見ノ一致ヲ見ヌルヲ以テコレヲ收容施設ニ

要スル經費トシテ御下賜金五拾萬圓ニ義捐

金ヲ加ヘ適當ナル團體ニ之カ經營ヲ委囑セムトス此

ノ金額約百五拾萬圓

七、震災救護ヲ目的トスル財團法人へ交附金

震災ニ基リ被害ニ對シ必要ナル救護施設ヲ講スル

為メ財團法人ヲ組織シ小住宅建設並ニ其ノ經營

不具瘵疾者再教育施設其他震災救護又
 上必要ナル社會施設ヲ行ハシムトス此、交附金額
 約壹千萬圓尚義捐金ニシテ處分残額ヲ
 生シタル場合ハ右財團法人ニ之ヲ交附スルモトス

臨時震災救護事務局

大正十三年 五月二十三日 五月三十日

大正十三年 五月二十三日 内閣書記官長 内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣	大藏大臣	海軍大臣	文部大臣	遞信大臣

別紙大藏大臣請議火災保險會社任意出捐助成金剩
 餘金支出ニ關スル法律解釋ノ一定ニ關スル件
 ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ
 通閣議決定セラレ可然ト認ム

法制局

濟